

なにごとにも注目される それが、女性研究者なのです

川島扶美子 熊本大学大学院自然科学研究科准教授

工学系（機械システム工学）

将来性の高さが決め手となった 理系という選択

大学進学の際に、理系を選択した理由は「理系は世の中の役に立ちそうだ」と考えたことと、潜在的にニーズがある分野に就けば、女性でも出世が可能だと思ったからです。また機械系の学科を選んだのも、職業選択の幅が広い分野であったため。現在、『高温強度』を研究していますが、実はまったく意図せずこの分野の門を叩くことになったのです。親切に授業を指導すると評判の教授の研究室を選んだところ、その先生の研究がたまたま『高温強度』だったので。ちなみにその教授の研究指導は、鬼のように厳しいものでした（笑）。

修士課程修了後、三菱重工業長崎研究所に研究員として13年間勤務。主に火力発電所の保守に関わる仕事に携わっていました。企業で働きながら、熊本大学大学院の博士課程に進み、そのご縁もあって熊大の教員に就くことになりました。

研究内容は、例えば火力発電所などで使用されている耐熱鋼。高温に長時間さらされるとダメージを受け

るため、定期検査を行い、発見された損傷をもとに破壊する時期を予想し、破損前に補修や交換をします。私は、この損傷をもとに破壊時期を予測する方法について研究しています。

体力と精神力は必須の世界

毎日地道な作業・研究の繰り返しですが、1年に1、2回ほど、実験や計測の結果が予想と一致することがあります。それが喜びであり、やり甲斐となっています。

将来、エンジニアまたは研究者を目指している女性たちに、私からアドバイスしたいことは「体力をつけましょう！」ということ。日本のエンジニアは業種・性別に関わらず、労働時間が長いのが現状。ミスをしたためにも、十分な体力が必要です。私も日頃から健康管理や体力作りを心がけています。また、女性エンジニアは善くも悪くも目立つので、評価と同じく失敗もまた注目されがちだから精神力も鍛えなくてははいけません。しかし**成功も失敗も自分次第**。智恵を働かせて、伸びやかに世間を渡って行ってほしいと思います。



時には学生とバスケットで汗を流すことも。ほどほどに手加減してくれる皆にも感謝！



地道な研究のためにも体力づくりは必須。できるだけグラウンドに出て太陽の光を浴びてます



Fumiko KAWASHIMA



働きながら
学んだことが
次の
ステップに!

One day

- 7:30 起床
- 9:00 大学へ
就業
- 講義・研究指導・論文
会議など
- 23:00 帰宅
- 食事・入浴
- 01:00 就寝(→油断すると遅くなる)

◎座右の銘

健康第一

◎リフレッシュ方法・落ち着く場所
太極拳、冬場のこたつ

profile

かわしまふみこ / 熊本高校卒業、東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻修士課程修了、熊本大学大学院自然科学研究科産業創造工学専攻先端機械システム講座博士後期課程修了。工学博士。

1998年4月から2011年3月まで三菱重工業長崎研究所に勤務。企業に在籍しながら熊本大学大学院で学び社会人ドクターとなる。2011年4月から現職。



Q.女性研究者が結婚生活(子育て)と仕事を両立させる秘訣は何だと思いますか?(複数回答含む)
理解がある夫(パートナー)を選ぶ 72% 夫婦ともに研究者 11%
完璧にこだわらない 83% その他 21%